

## 令和 4 年度 「保護者による学校アンケート」の結果

保護者アンケートの集計結果及びご感想ご意見について報告させていただきます。今年度からタブレット等でアンケートを取らせていただき、保護者の皆様からのアンケートの回収率約は70.21%（昨年度93.69%）でした。



ご協力、ありがとうございました。いただいたご意見を参考にし、今後も学校運営改善に努めてまいります。

No.	質問項目	評 価				令和2年度	令和3年度	令和4年度
		1	2	3	4		---	---
学習指導	1 授業が楽しく分かりやすく展開されている。					3.56	3.61	3.46
	2 授業では、児童が生き生きと活動している。					3.63	3.60	3.41
	3 授業中、児童は集中して取り組んでいる。					3.32	3.32	3.16
	4 基礎的・基本的な学力が身につけられている。					3.43	3.41	3.22
地域に開かれた学校	5 学校は、教育目標や教育方針を分かりやすく伝えている。					3.50	3.50	3.36
	6 学校は、教育活動を積極的に公開している。					3.58	3.51	3.44
	7 学校は、家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている。					3.59	3.53	3.30
	8 運動会等の学校行事は、児童にとって楽しく充実している。					3.67	3.69	3.70
心の教育	9 学校は、体験を通して豊かな心を育むことに努力している。					3.67	3.67	3.63
	10 児童の挨拶がよくできている。					3.15	3.17	3.11
	11 学校は、思いやりの心を持ち、人権を尊重するよう指導している。					3.49	3.51	3.39
	12 学校は、いじめの根絶を目指し教師と児童の信頼関係に基づいた指導をしている。					3.48	3.52	3.38



## 学校評価詳細（分析等）

- 1 評価全体の数値と割合（全回答個数 1 5 8 4＝回収数 1 3 2 枚×質問数 1 2 項目）
- 【4】（そう思う）・・・・・・・・・・ 7 4 1（4 6. 7 8 % 前年度比▼6. 5 4 %）
- 【3】（ややそう思う）・・・・・・・・ 6 5 4（4 1. 4 9 % 前年度比▼3. 5 8 %）
- 【2】（あまりそう思わない）・・・・ 1 2 4（ 7. 8 3 % 前年度比+3. 0 4 %）
- 【1】（そう思わない）・・・・・・・・ 1 6（ 1. 0 1 % 前年度比+0. 9 7 %）
- 無回答（わからない）・・・・・・・・ 4 9（ 3. 0 9 % 前年度比▼0. 9 4 %）

昨年度までは学級で紙によるアンケートへの回答を回収していましたが、今年度からタブレットや携帯電話等からアンケートにお答えいただく方式をとらせていただきました。（また昨年度までは、学校運営協議会委員の皆様のご意見も入れさせていただいていましたが、今年度は純粋に保護者の方からのご意見のみを集計させていただきました。）

## 2 成果と課題（○－成果 ▲－課題、今後の方向性）

○新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を講じながら、児童の心のケアを大切に、「今、できること」「やるべきこと」を意識しながら教育活動に取り組むことができた。その結果、おおむね児童は落ち着いた生活を送り、思いやりを持った行動をとり、元気に生活している。埼玉県学力学習状況調査の質問紙の結果からも、学級が楽しいと感じながら学校生活を送っている児童が多いことが分かった。

○今年度、実施方法を工夫・改善しながら学校行事に取り組み、宿泊や校外学習など各学年たくさんの思い出を作ることができ、児童にとって充実した1年になった。

▲項目8以外は、昨年度よりも評価が下がっている。特に1～4の学習指導に関しては全項目が昨年度評価より肯定的な意見が減っている。授業での元気な様子を公開する機会の不足やコロナ渦の濃厚接触などでの本人の体調にかかわらず、欠席しなければならない状況でのリモート学習等が進んでいないことも理由として挙げられる。今後、こうした状況に対する対策を学校として改善していく。

▲児童の学習活動、行事は少しずつコロナ前の状況に戻りつつあるが、依然として学校公開、授業参観など保護者や地域の方々に学校の様子を知っていただく機会を増やせていない。公開できる機会をコロナ感染の状況を見極めながら増やしていく。

## 3 その他

埼玉県学力学習状況調査の質問紙の結果から、学級が楽しいと感じながら学校生活を送っている児童が多い。しかし、学習面では、二極化が進み、学習が苦手な児童の中には、計画をたてて取り組めなかったり、好きな教科や容易にできる学習にのみ取り組んでしまったりする児童が多い傾向がみられる。

また、昨年同様、児童の読書への関心に差があり、学年が上がっていくと、読書量が減っていることがわかった。引き続き家庭と協力し合いながら、児童の読書への関心を高め、思考力の基となる言葉の力や表現力を授業の中で確認したり、生活の中で活用できたりするように活用場面を設定していく。

